

令和6（2024）年度事業活動報告

1. 概況

- 1) 法人創立10年目を迎えます（2025年）。
- 2) ここ5年間活動：①針葉樹伐採跡の植林放棄地の植林による森の再生活動に加えて、②里山の放任竹林伐採整理と跡地広葉樹植栽の森の再生事業に力を注いだ。
- 3) 結果：静岡県知事から5年連続して、【静岡の森づくり貢献証】最高位マスタータイプを受証し、静岡市を代表する森づくりグループに認定された。
- 4) 年間延動員数：300人程度で、市内4ヶ所（川合山、有度山、貝伏山、大平見）、川根本町1ヶ所（尾呂久保水川）の地点で森の再生事業を展開しているが、作業要員が足りない。
- 5) 森の再生活動：すべての活動は助成金による活動であり、森の再生を含む森づくり活動は軌道に乗ったものと考えられる。
- 6) 作業手当：静岡県の外郭団体の「ふじのくに未来財団」の助成金しか、“作業手当”を認可しないので、事業規模の大きなプロジェクトは受けられない事情がある。それゆえに、現行の我々の予算規模では、事業拡大ではなく、事業継続を主に考慮せざるを得ない。
- 7) 法人負担：助成金の対象外の時期（春先から初夏）にも、下草刈、新竹伐り等の必須作業があり、この時期の作業手当は法人の自己負担である。
- 8) 寄付金：法人が自由に使える経費を確保するべく知人友人に広く賛助金を求めたところ32人から、2百万円超の寄付金が集まった。当座の経費不足は解消した。
- 9) 世代交代：理事長は本年8月1日に86歳になります。そろそろ、世代交代の時期が迫っています。次は、公職経験者が望ましいと考えています。なぜなら、組織の維持管理改革は行政の得意分野であり、一つの分野軌道を更に発展維持させる技術は行政マンの特技だと思います。

2. 助成事業

- 1) 静岡市放任竹林整備事業補助（現物支給）
環境局環境共生課の担当。令和6年5月1日付申請した消耗品の支給につき、6月25日付支給決定通知書が届き、竹専用ノコギリ用替刃20枚、2サイクル用混合オイル1缶、チェーンソー竹専用替刃2本。後日、受領した。
- 2) 公益財団法人 静岡グリーンバンク補助金
「森づくりグループ活動支援事業」として（25万円）
 - ① 場所 : 瀬名地区川合山（標高125m）
 - ② 作業内容 : 竹林伐採整理、跡地広葉樹植栽。
 - ③ 作業条件 : 地権者と土地使用協定書を締結。
今回は、地権者3人と協定書を交換、尾根筋の面積約838㎡（254坪）を伐採。
 - ④ 植栽 : 伐採跡地に広葉樹535本を植栽。
この苗木代に25万円を活用した。
 - ⑤ 苗木内訳 : ★ポット苗8種（タブノキ、スダジイ、シラカシ、粗榿、赤榿、藪椿、シロダモ、モチノキ）
★大型ポット苗2m物3種（欒、紅葉、白榿）
★植林苗0、8m物3種（コナラ、山栗、欒）
 - ⑥ 混植 : 落葉広葉樹と常緑広葉樹の混植。
 - ⑦ 土壌 : 川合山の土壌が優れているのか植栽した広葉樹はよく育つ。
今回の延動員数170人。次回目標は250人。
- 3) 三菱UFJ環境財団、苗木寄贈事業。
毎年、県の担当部署から連絡ある定例事業。
苗木代を寄贈いただく助成事業（30万円）。

- ① 場所： 県有地有度山北麓里山林再生ゾーンの谷田地区の放任竹林0.5ha（1500㎡）を伐採整理し、跡地に
- ② 植栽： 広葉樹424本を植栽した。
- ③ 苗木内訳；★大型ポット苗2～3m物（欅、紅葉、白欅）は大きな穴が必要なので、竹林の密度の薄い場所に集中して植栽した。普通の竹林跡地は竹根が成長しているので大きな穴掘りは大変苦勞する。
★ポット苗：2、3年生（タブノキ、スダジイ、白欅、粗欅、藪椿）。
★植林苗0.8m～（コナラ、山グリ、欅）
- ④混植：いつもながら、落葉広葉樹と常緑広葉樹の混植を心がけた。今回は、更に静岡市森林組合長の好意で特別に落葉広葉樹センダンの苗木10本を頂戴して混植した。センダンの木は成長が早く、年間1mほど成長し、芽掻きをして大きくする。欅の木目に似ていて材も適度に硬く内装材に適していると言われる。静岡に茶畑放棄地が広がっているので、将来の代替木となるのではないかと考えられている。
- ⑤お休み：公益信託しずぎんふるさと環境保全基金は、3年連続受領したので規定により、1年お休みとなった。
- 4) 公益財団法人ふじのくに未来財団、団体指定：テーマ指定：「静岡県における環境保全活動」助成金（60万円→実績48.2万円）
（6月申請、9月1日認可）。事業名「静岡里山の健康な広葉樹の森づくり復元促進事業」。
- ① 計画動員人数：375人、作業手当：600,000想定。

（ $375 \times 2000 \text{円} = 750,000 \times 0.8 = 600,000$ ）
- ② 実績：278人（97人減）
★川合山動員数：170人の作業手当
★有度山動員：100人の作業手当

- ★貝伏山動員 : 8人の作業手当
- ③考察と反省 : 作業要員が集まらなかった。定年退職者のリクルート方法を新たに考案する必要を感じた。
- 5) イオン環境財団：里山コモンズの再生事業：「里山水源の森復元事業」（令和5年12月認可）（助成金：107万円）
 - ① 場所：興津川支流、清水区西里貝伏山（458m）水源の針葉樹伐採後の植林放棄地0.5ha。
 - ② 鹿防護柵ネット設置：静岡市森林組合に委託
 - ③ 広葉樹：静岡の潜在植生8種類の常緑広葉樹ポット苗800本。
 - ④ 地拵：植林放棄地なので、残枝が多く処理に15万円を投入。
 - ⑤ 推薦状：静岡大学長 日詰一幸先生
 - ⑥ 植樹：5月11日実施：（地元民、県内外の人等）27人。
 - ⑦ 苗木内訳：（スダジイ、タブノキ、白欐、粗欐、赤欐、藪椿、シロダモ、モチノキ）800本
 - ⑧ 現況：順調に生育中
 - ⑨ 計画対実績：106.5万円±0（全ての報告終了）。

3. 独自事業

- 1) 樹木学現地講習会

平地と山地の境にある川根本町には、20種類を超える楓があると言われるほど、豊かな樹木の垂直分布が見られる。

この地を標高1400mから下りながら実態観察し、主要樹木の説明、解説を受ける研修である。

 - ① 日時：2024年5月18日（土）半日予定
 - ② 集合地：川根本町役場駐車場 9時
 - ③ 場所：川根本町山犬段 静岡大演習林内
 - ④ 講師：飯尾淳弘氏（静岡大准教授）
 - ⑤ 募集：20人（参加者14人）

- ⑥ 費用：3000円
- ⑦ 持参：筆記用具、弁当
- ⑧ 内容：学生対象の野外研修並み。
- ⑨ 備考：車相乗り4台
- ⑩ 解散：午後3時ごろ、大札山駐車場
- ⑪ 考察と反省
 - ★有意義な講習会であった（30種類弱の樹木の説明を受けた）。
 - ★演習林事務所付近にて、広葉樹中心の実地研修。
 - ★初めてのことにて、樹皮すら認識できない受講者がいた。
 - ★複数回実施すれば、理解が進むことが期待できる。
 - ★次回参加したい希望者多し。
 - ★参加者；南アルプスクラブ：（5人）
 - 日本山岳会：（4人）
 - 森林組合おおいがわ：（3人）
 - 本会から：（2人）

以上